

薬物相互作用を回避することで治療効果向上に寄与した例

プレアボイドとは薬学的ケアから患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減した事例を意味します。今回は、新規服用開始となった薬剤の相互作用を回避するため、服用中の薬剤を他剤に変更することで、治療効果の減弱を回避した事例のプレアボイドを紹介いたします。

患者背景

▶軟部肉腫に対する加療目的にて入院した患者

【内服薬】

ネキシウムカプセル 10mg 1回1CP 1日1回 夕食後

【新しく処方された内服薬】

ヴォトリエント錠 200mg 1回4錠 1日1回 昼～夕食間

Uさん



ヴォトリエントを服用する予定のUさんですが、現在ネキシウムカプセルを服用しておられます。ヴォトリエントはネキシウムとの併用で、血中濃度が低下するとの報告があるため、できる限り併用を避けるように添付文書に記載されている薬剤です。



薬剤師



医師

そうなんです。でも、服用は続けたいし、どうしたらいいでしょう。

ネキシウムの代わりに H₂ ブロッカーのファモチジンに変更するのはどうでしょう。他のチロシキナーゼ阻害薬 (TKI) のデータでは、ネキシウムとの併用では同じく血中濃度が低下するが、ファモチジンとの併用では服用時間をずらす (投与 10 時間前及び 2 時間後) ことで、血中濃度に影響はなかったとの報告があります。Uさんは、昼～夕食間にヴォトリエントを服用される予定なので、ヴォトリエントの服用から 2 時間あけて夕食後にファモチジンを服用することで、ヴォトリエントの血中濃度への影響を最小限にできると思います。



なるほど。では、早速ネキシウムをファモチジンに変更します。

その後、ネキシウムからファモチジンへ薬剤変更となり、ファモチジンはヴォトリエントの服用から時間をずらして服用することとなった。

新規服用開始となった薬剤の相互作用を確認することで、相互作用による治療効果の減弱を回避することができた。